

4～7月 センターの機能の活用状況

今年度も当校のセンター的機能をご活用いただきましてありがとうございます。7月まで活用状況についてご報告いたします。2学期以降の活用の参考になれば幸いです。

【① 教育相談】

右の表では、電話相談の件数は、電話での問い合わせから訪問支援を行ったケースは「訪問支援」に数えています。また、学校見学は、6月のオープンスクールに参加したケースを含んでいます。

オープンスクールについて、昨年度から地域関係者向け、年中・年長児向け、小5・6年向けの3日間に分けて実施しています。また、ご希望があれば、個別での学校見学や来校相談も受け付けています。



また、次年度（R9年4月）に入学または転学を検討されている方については、9～10月に授業体験をお受けいただくようお願いしています。ご希望がありましたら、遠慮なくお問い合わせください。

① 教育相談	電話相談	3件
	来校相談	0件
	学校見学	3件
	体験学習	0件
② 訪問支援	小学校	19件
	中学校	7件
	幼稚園・保育所	0件
	高等学校	4件
③外部専門家派遣		0回
④研修支援		2回

（令和8年度4月～7月）

【② 訪問支援】

火・木曜の週2回を訪問支援の対応日に設定し、午前・午後各2ケースを上限にお受けしています。今年度は、5月の申し込みが減った反動か、6月だけでなく7月も夏休み直前まで訪問支援の依頼がありました。入進学後、児童生徒の観察と校内での支援の検討をさせていただいた上で、必要に応じて訪問支援をご利用いただいている影響だと考えています。

気になる事例がありましたら、まずはメールや電話でご連絡いただければ幸いです。

《こんな相談がありました》

質問 小学校高学年情緒学級児童。昨年度から情緒学級に入級した。本人に合った教科学習の進め方について知りたい。

【回答】 情緒学級入級前に観察した際は、学習に自信がなく、支援員がつきっきりで支援していました。その時の様子と比べると、穏やかな表情で学習に向かっています。保護者の理解を促して入級につなげたことで、本人の頑張りが実を結びやすくなり、気持ちの安定につながったようです。

当日は、入級に伴い受検した発達検査結果（得意・不得意の差が大きい方でした）と授業観察をもとに、得意を生かした支援方法を提案しました。具体的には、検査結果から、指示を覚えることや活動を自分で組み立てて行動することは苦手な一方で、やることが分かれば行動できることが予想されました。そこで、分かりやすい言葉でやることをメモで渡す、あるいは台本のような形で渡す等、一つずつ実行すればいい状況を作ることを提案しました。

【外部専門家活用】

今年度4～7月は、外部専門家の利用はありませんでした。

当校では、あけぼの支援学校・わかば支援学校（本校）と連携して理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理士との帯同訪問を行っています。一般の訪問支援よりも日程調整にお時間をいただいています。



【③ 研修支援】

7月までに2件の研修講師を担当しました。そのうち1件は、校内研修会でした。

訪問支援を行っていくと、板書の工夫等のユニバーサルデザインされた授業が増え、私たち自身も学ばされることが多くあります。これは、各校で特別支援教育に関する校内研修会を定期的実施していただいている成果だと感じています。また、懇談の際の助言・提案を前向きに受け止めていただけることが増えているように感じます。

様々なセンター的機能のうち、訪問支援は事後対応、研修支援は予防的対応と考えています。今後も、必要に応じて研修支援をご利用いただくことで、共に学び合える機会をいただければ幸いです。

校内研修の流れの一例

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 講師自己紹介と研修会の流れの提示 |
| 2 | 学びにくさのある児童生徒について |
| 3 | LD・ADHD等の心理的疑似体験プログラム |
| 4 | 関係者（保護者を含む）との連携 |
| 5 | まとめ |

今後とも、当校の相談支援活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

山梨県立わかば支援学校 ふじかわ分校

ホームページ：<https://www.wakafujy.kai.ed.jp/>

T E L：0556-27-0067

メール：michi-ko@kai.ed.jp（保坂直通）

地域支援担当：保坂美智子 菊池彩美

